

令和3年度

第1回総合教育会議
会議録

とき 令和3年12月14日

品川区

令和3年度第1回品川区総合教育会議

日時 令和3年12月14日（火） 開会：午後3時

場所 品川区役所 本庁舎5階 第五委員会室

出席者	区長	濱野 健
	教育委員会教育長	中島 豊
	同 職務代理者	菅谷 正美
	同 委員	冨尾 則子
	同 委員	海沼 マリ子
	同 委員	塚田 成四郎

出席理事者	総務部長	榎本 圭介
	総務課長	古巻 祐介
	教育委員会事務局教育次長	米田 博
	同 庶務課長	有馬 勝
	同 学校施設担当課長	小林 道夫
	同 学務課長	勝亦 隆一
	同 指導課長	工藤 和志
	同 教育総合支援センター長	矢部 洋一
	同 品川図書館長	吉田 義信

傍聴人数 2名

次第

1. 開 会
2. あいさつ 品川区長、教育長
3. 議 題 議事進行：総務部長
 - (1) 報告 品川区学びのイノベーションについて
 - (2) その他
4. 閉 会

○総務部長

定刻となりましたので、令和3年度第1回品川区総合教育会議を始めさせていただきます。

本日は、傍聴の方が今現在2名おられますのでお知らせいたします。なお、本日の会議におきましては、記録用にカメラ撮影をさせていただきますが、お顔が映らないように配慮いたしますので、御了承ください。

それでは、開会にあたりまして、濱野区長より挨拶を申し上げます。濱野区長、よろしくお祈いします。

○濱野区長

皆様、こんにちは。総合教育会議ということで、御参集を賜りまして、誠にありがとうございます。今年度第1回目の総合教育会議に御参集いただきまして、大変ありがとうございます。

今日のテーマでありますけれども、品川学びのイノベーションという議題です。横文字ですね。国は経済発展と社会的課題の解決の両方を図る、新たな社会の仕組みを提唱しております。社会全体のデジタル化に向けた取組を進めていくというふうに聞いております。私自身はよく分からないんですけど、社会全体のデジタル化、難しいですね。デジタル庁とか、東京都においてはデジタルサービス局、こういう部署を設置して、今申し上げましたデジタル社会の実現というのを進めていこうということでもあります。

緊急事態宣言が解除されましたけれども、新型コロナウイルスの影響からも、デジタル化のさらなる加速というものが求められていると思っております。品川区も、同時にデジタル施策を推し進めておりますけれども、本日は教育分野におけるICTの活用について、ご意見を賜ればというふうに思っております。学校でもタブレットを使う授業というのが進められているようでもあります。

私事になりますけど、私は役所に入ったときに、最初に配属された部署が当時は電子計算課というところで、いわゆるコンピューターの部署でありました。そういうことで、私はデジタル化については大変なものであります。大変に分からないということ。ともかく、今、子どもたちはもう本当に、我がものとしてデジタルを掌に収めて、しっかりと取り組んでいるということを感じておりますので、我々も負けてはいられないなということでもあります。教育長よろしくお祈いします。学校のほうでも、いろいろ先生方も大変かと思いますが、よろしくお祈いしたいと思ひます。

私からの挨拶は以上でありますので、進行は総務部長へ引き継ぎたいと思ひます。そして、教育委員会の代表として、中島教育長からご挨拶をお祈いしたいと思ひますので、よろしくお祈いいたします。

○中島教育長

はい、ありがとうございます。

濱野区長におかれましては、GIGAスクール構想に大変ご理解をいただき

まして、2万2,000台くらいの教員までも含めたタブレット配付で、私どもの思いを具体的にさせていただきました。ありがとうございます。この場をお借りしまして、お礼を申し上げたいと思います。

おかげさまで、今日この後見ていただくVTRもそうなんですけれども、各学校におきましては、昨年度に比較して大きくタブレットを活用したICTを利用しての授業が展開しているところでございます。

これを導入するにあたりましては、学校でも家でも図書館でもどこでもつながる品川のタブレット、そして、あれもだめ、これもだめ、それもだめというように、全部制約をかけて、その中で決まったことをやらせるのではなくて、なるべくそういった制約は排除する中で、できることをさまざま工夫していただこう、子どもたちの可能性もそこで増やしていこう、教員たちの工夫もしてもらおう、やりやすいように環境をつくっていこうということで、これもご理解いただいて、そういう設定にさせていただきました。

もちろん、進めていく中では、当然新しいことをやるので、課題が出てくるのは当然でございます。それは一つ一つやはり解決していけばいいなど。

とにかく今、タブレットが品川の教育を変えつつありますので、今日はそんなようなところにも触れながら、区長さんと私どもと、この新しい教育内容についての理念を共有できればな、そんなふうに考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

○総務部長

ありがとうございました。それでは議事に入りたいと思います。この後、着座にて進めさせていただきます。

それでは、議題1の(1)報告ということで、品川学びのイノベーションについて、指導課長より説明をお願いします。

○指導課長

それでは私より説明させていただきます。お手元の資料1をご覧ください。まずは1枚目でございます。品川学びのイノベーション、タブレット端末を活用した学習の推進とタイトルがあるものでございます。

品川区教育委員会ではGIGAスクール構想の実現に向け、令和3年2月末までに区立学校の全児童生徒に1人1台のタブレット端末を配備したところでございます。

資料中段、各学校での実践とございますように、タブレット端末から利用できるロイロノート・スクール、eライブラリアドバンス、Zoomなどのアプリを活用し、授業の効率化や家庭学習の充実などを進めているところでございます。

また、教育委員会が取組として各学校支援として行っているところは、資料下段に示させていただきました。

まず、ICT教育の先進都市である熊本市と連携したICT推進担当教師向

けの研修会を実施いたしました。実際に熊本市で行われた授業の様子をオンラインで視聴した後、熊本市の教員と品川区のICT推進担当教員が利活用について協議交流を実施するなどの研修を行っているところでございます。

また、中段、真ん中でございます。ICT支援員の派遣というところでは、ICT機器の活用を推進するため、専門の知識を持ったICT支援員を週に1度程度、各学校に派遣し、教員の支援に当たっているところでございます。

また、相談ツールの導入ということで右側に示してございますが、学習面以外でも、相談ツールを導入するなど活用の幅を広げており、これまでも紙媒体で行ってございましたアイシグナルや、チャイルドラインなどの相談ツールも導入しながら、タブレット端末のホーム画面から直接専門機関へ相談を行うことができるようにするなど、活用の幅を広げているところでございます。

では、ここで学校での活用の様子を視聴していただければと思いますので、ちょっと画面のほうをご覧くださいと思います。

(映像視聴)

○指導課長

活用的一端をご覧くださいました。また、資料のほうにお戻りいただければと思います。

続いて資料2枚目でございます。2枚目の資料につきましては、児童生徒にかかわる全ての人々がICTを介して一体となり育成するというタイトルにしているものでございます。こちらは、区立学校におけるICTを活用した今後の教育の方向性を示した図でございます。令和2年度は整備と研修を実施し、先ほど申し上げましたように、令和3年2月末に配付をしたところでございます。令和3年度現在につきましては、区立学校全ての児童生徒及び教職員1人に1台が配付され、授業での活用を今見ていただいたように推進しているところでございます。

また、活用におきましては、図の中心にございますように、学校、保護者、品川コミュニティ・スクール、地域、企業、教育委員会と連携しながら、子どもに関わる全ての人々が一体となりながら、現在進行形で活用推進または検討しているところでございます。

引き続き連携を進めながら、ICTの効果的な活用による授業改善を行い、品川区で目指している未来を切り拓く児童・生徒の育成に努めていくとともに、得られる知見や課題をもとに検証しながら、タブレットを教育のツールの一つとして、活用の日常化を図りながら、さらに教育の質の向上につなげてまいりたいと考えているところでございます。

説明は以上でございます。よろしくお願いたします。

○総務部長

それでは、資料1の品川学びのイノベーションについて説明がありました。

これについてご意見等をお伺いできればと思っております。よろしく申し上げます。

○海沼委員

では、よろしいでしょうか。

タブレットの端末を渡された子どもたちはとっても大切にして、使わせていただいていると思います。

L T E波とW i - F i を切替えて通信することが可能であることから、W i - F i 環境のない家庭でも持ち帰って学習を快適に行うことができる点が配慮されていると思います。

また、家庭での使用に関わるルールやマナーについても配慮していけるといいなと思っております。

○富尾委員

続きまして、私のほうから。タブレットの使用につきましては、健康を害することがないように、部屋を明るくしたり、休憩を設けたりするなどの配慮をすることも大事だと思います。その点でも、既に家庭でのタブレット端末の使用にあたっては、使い方に関するお便りで、周知されているというふうに向って大変安心しました。

インターネットの時間の制限を午前7時から午後9時までということにして、健康面での悪影響が出ないようにしているということについても、いいことなのかなというふうに思っています。

○塚田委員

続きまして、塚田から意見を一つ申し上げますが、各学校の教員からI C T 支援員が週に1度学校に来くれるということ、大変ありがたいという声を聞いています。教員の方も若い先生から、ある程度年配の先生方など、いろいろいると思います。やっぱりI C T に関してやっぱり若い人が断然有利というか、若い頃からなれ親しんでいるということから、どうもやっぱり年配の人はなかなか難しいところがあると思います。

それでも、支援員が週に1回学校に来てくれるということでもありますから、こういう機会にいろいろサポートを受けられるということは非常に大事なことだと思います。生徒も不安ですが、やっぱり先生も不安だということがあると思いますので、今後I C T 支援員の専門的な支援と自立サポートが、ますます活用されるようお願いしたいと思います。

○菅谷教育長職務代理者

区長さんが先ほどありましたように、私も多分同じ世代でございますので。大学でコンピューターの言語を習ってソフトを書いていた。もう50年前です。今、全然駄目です。

世の中が変わって、大人が進歩するよりも子どもたちがうんと勉強するようになりましたね。今、塚田先生がおっしゃったように、本当に若い人、特に子どもがこの活用をすごくよくやりますし、能力高いですね。我が家でも、学校と家庭をつないで見ることができるようなシステムをつくってくれていますが、立ち上げが大変なんですね。この前やってもらったんです、1年生の子どもにやらせたらできましてね。私の家内は70を超えていますけど、やらせたら駄目でした。

やっぱり若い人から学ぶということもこれからの社会の中で出てくる。逆転現象が起きているんですね。だから、教員であっても20代の教員と60代の教員では持っているものが全然違います。それに応じたさまざまな研修をしていくことがすごく大事だなと思います。品川区は、子どもたちがタブレットをもっているだけじゃなくて先生方も持って、なおかつ勉強している。この状態は、私は一番いい環境にあるなと思っています。

ただ、これを続けていかないと、新しいものがどんどん出てきますので、50年前の自分を見ていましたので、世の中に遅れてきた。遅れないためにも、先生が頑張っていくというのがこれから必要じゃないかなとそうように思っております。以上です。

○中島教育長

何かぼんぼんと4人の委員の方のお話をいただいて、私が議会答弁するみたいな感じで。区長さんとのお話をぜひしていきたいなと思うんですけど、今お話があったように、そのルールですとかマナーですとか健康というのは、やっぱりどうしてもなかなか統一的にあれだめ、これだめというふうにするわけにいかないの、発達段階に応じてルールを変えていったりとか、子どもたちでつくらせたりとか、各家庭でこういうふうにやろうねと決めたりとか。その対応というのは結構その個々の対応が求められるところがあるんですが、一応本区としましては、使える時間は午前7時から夜の9時まで、それ以外はもうつながらない。そんなような設定にしているんですけど、でも子どもによってはそれをうまくかいくぐって、ずっとこうつながるように設定してしまうなんていう子もいるものですから、そういうのはやはり、最終的にはもう個人の意識を考えていかなきゃだめだねみたいところで対応しています。

それから、一応何でどれぐらい使ったかということがモニターできるようなシステムをつくったりとか、使えるネットの量も制限したりとか、いくつかはそういうのをかけてはいるんですけど。最終的には子どもたちの意識を醸成していかないとだめなのかななどというふうに思います。私たちがこれまでやってきた経験とは違う課題なものですから、もうこの辺は教育委員会でも、やはり若いSEたち、システムエンジニアたちの判断を仰ぎながら進めているような状況があります。

それと、ICT支援に当たっては、やはりそのSE、専門家の方ですから、この方々が学校に来ていただけるというのは、学校のほうで非常に助かってい

るという話を聞きます。1週間に一度なんですけれど、毎日いるとまたそれはそれで依存性が強くなってしまったりするところもあって、やはり程よい具合がいいのかなと思っています。

教員のほうのスキルアップというお話を菅谷先生からもいただいたんですけど、レベルがそれぞれに違うので、どういったところにターゲットを当てて研修していくかというのは、これから私たちも考えていきたいなと思います。私どものぐらいの年になってきますと、そういう少しアップしていこうというモチベーションがだんだん落ちてきてしまうような気がするんです。先ほど菅谷先生も、1年生の、もう子どもさんに任せているみたいな話がありました。

先ほど申しましたように、こういったような状況の中で品川区の教育というのは、今、大きく変わりつつある状況かなあというふうに。委員の皆様には、学校訪問等でその様子をいろいろ見ていただいて、これからまたお話を伺えるかと思うんですけども、何かお感じになったことはありますか、区長さん。

○濱野区長

急に振られたので、どぎまぎしていますけど。学校の先生方もこういう分野で、教育のこういう分野で取り組むというのは結構大変なんじゃないかなと思いますね。

○中島教育長

経験ないですしね。

○濱野区長

そうそう。だから、その授業の前に一生懸命勉強して、授業に臨んでいるんじゃないかなと思いますね。

昔、自分が授業を受ける立場のほうだから、もう本当に何十年も前ですけど、今で言うと技術科というのかな、そういうのありますか。

○中島教育長

今でも技術科はあります。

○濱野区長

ありますか。自転車を分解して組み立てなおすという授業をやって、そうしたら先生が分からなくなっちゃってね。結局、あれ、あれ、なんていう言葉を連発しながら、急に今日の授業はここまでとか言って終わっちゃったんですけどね。やっぱり、学校の先生だって得意、不得意あるし、特に低学年だと全部教えなきゃならないってということで、前の晩に一生懸命仕込んで、それで授業をしているという分野もあるんじゃないかと思うんですけどね。そういう意味では学校の先生は大変だなと思うんだけど、子どもでいうと、僕らはトラカンというのがありましたよね。虎の巻ね。授業の内容とかがあらかじめ書いて

あるんですよ。自分もそういうのを本屋か何かに行って見つけてきてね、先生の言うことを聞きながら、こうやって見て、ああ、おんなじことを言ってるって思って。それで、技術家庭のときに自転車を分解していったら分かんなくなっちゃって、混乱して今日の授業はここまで、なんていってあれしちゃったんですけど、でも、それを聞きながら、学校の先生って本当に大変だよなと思いましたね。

教える内容もどんどん変わっていくじゃないですか。年とともにね。そういうのって、例えばこういうタブレットのことなんかで、学校の先生って結構苦労されているんじゃないですか。

○中島教育長

常に研鑽をして、中学生には中学生に合った、1年生には1年生に合った、国語の特徴としてはこういうような使い方、で、体育や保健体育ではこういう使い方がいいんじゃないか、そういうのをやはり今さまざま研究している状況があります。

区長さんがおっしゃるように、そうやって準備したけれどもやっぱりうまくいかないというケースもあるんですね。特に、タブレットを使っていると、ネットが途中でつながらなくなってしまったとか、他はつながっているのにどうしてこれだけつながらないんだろうとか。理科の実験などでも、こちらは教科書に書いてあるようにやるんですけど、そのとおり結果が出ないとかいろいろあって。でも、それはそれなりにどうしてだろう、なぜなんだろうと子どもたちが考える機会にはなるんですけどもね。

○濱野区長

そういう意味では、学校の先生大変だと思いますよね。パソコンか何かやってね、固まっちゃうとかいうのがあるじゃないですか。動かなくなって。先生、脂汗出てきてるんじゃないかなと思ってね。先生の仕事もなかなか大変だなと思いますよ。今、その分野じゃ、子どものほうが逆によく知ってるということもある。

○中島教育長

いろいろな子がいますしね。

○濱野区長

大変じゃないかなと思いますけどね。こういうタブレットとか何かをいじくるといのは、教育そのものとはまたちょっと違う部分があるんじゃないかと思うんですよ。どうなんですかね。

○中島教育長

多分、区長さんがおっしゃりたいのは、教育の内容は内容としてある。で、

タブレットを活用するというのとは一つのツールでありますので、方法としてタブレットを活用すると、こんないいアプローチができるよみたいなどころでしょうか。それが分かってくると、うまくいくと、いい授業につながっていく可能性があるということだと思います。

その辺って、教育委員の方も結構見ていただいているのです。海沼先生も授業を何回か見ていただいていますね。

○海沼委員

インターネットなんかによくつなげて、子どもたちもいろんな活動をやっていますよね。そうすると、いろんな調べ物もいろいろな角度で見えたりとか、本当に子どもたちにとってもいいし、また、それこそさっきの話じゃないですけど、先生方は大変だなと思って見ていることが多くあります。

課外授業とかどこかへ行ったときでも、写真も撮れるし、それからまた送れるとか、いろいろありますよね。今は便利なんだからって思うことが非常にあります。

○中島教育長

校外学習のほうで学校の外に出たっていうときも、タブレットを活用して、その状況を学校でも共有することができるとか、今まではちょっと考えられなかった形が生まれています。

○濱野区長

あとはキーボードをね、両手でかしゃかしゃとやるね。こっちはこんなことやって。家でもやっているんですかね、子どもたちって。両手でね。ピアノなんか習っていると、手指の動きは良いかもしれないけど。

○中島教育長

今、学校ではローマ字入力でやっているのかしら。かな入力ではなくて、ローマ字入力でやっていると思います。

○濱野区長

やっぱり、得手不得手ってあると思うんですよね。だから、そういうのはたどたどしくても、決して急がせたり、笑ったりなんかするというのは絶対禁物だろうと思いますよね。でも、子どもって結構残酷じゃないですか、実際のところ。まだやってんのかね、結構じわりじわり責めてくるんですよね。そういうときって、学校の先生の指導って難しいんじゃないかなと思うんだよね。

○中島教育長

多分、子どもたちの許容範囲内というのがあって、そこでのやりとりが多いだろうとは思いますが、センター長、何かありますか。いきなりで

申し訳ないですが。

○教育総合支援センター長

タブレットというよりは、お友達ができていなかったら待つとか、自分でもし教えられるんだったら教えてあげるといことは常々指導していますので、その中の1つにタブレットを使う場面もあるかとは思いますが。

○中島教育長

なるほど。特に、今年はコロナでいろいろな形でタブレットが活用できたということもあるんですけど。この間、塚田先生とも何かそんな話をしたことがあるんですけどね。

○塚田委員

コロナで緊急事態宣言が出ました。我々教育委員会もタブレットをいただいてまして、会議もタブレットを使って会議をオンラインでやるようにした。緊急事態宣言が解除されたのでリアルに会っていますけど。ですから、そういう意味ではコロナというのはこういう技術が発展する、ある意味いい機会になったというふうに思うんですね。会社なんかも、必ずしもリアルで会議を開くことないんじゃないのというふうなことが、今後そういう流れになっていくんじゃないかと思えますね。

これから、今はタブレットですけれども学校ではね。子どもたちはやがて大きくなればパソコンを自分たちで持って、パソコンでいろんなことを調べたりしていくんだと思えます。今、パソコンで何か調べるというのは世界的に若い人には当たり前になっていますね。そういう意味で、やっぱり今、日本の品川区の子どもたちもそういう姿勢といいますか、そういう何か分からないことがあったらインターネットで調べてみるとか、そういうことがだんだん必要になって、彼らもこれからいろいろ知識が増えていくということになるんじゃないかなと思えますね。

確かに、若い人はやっぱり長けてますよね。だから、私のところの法律事務所にも息子がいるんですけど、何か分からないことがあるとちょっとこれどうなってんのって聞くんですね。そうすると、一応解決するんですよ。だから、分からないことにぶつかったときに聞くっていうのが非常に効果的ですよね。だから、一からずっと講義受けるんじゃなくて、分からないことがあったとき、これどうするの、こうすれば解決するんだ、というのが分かって身につきましますね。

○中島教育長

学校でも、そういう子どもたちの場面ってありますよね。

○塚田委員

これから、大事な技術になっていくと思いますね。

○濱野区長

今、私の家庭の孫が小学校1年生でね、何かやっていますね。のぞくと分かんないんですよ。何か画面が出てきて、ああ、そうなんだとか何かね、独り言を言っているんですよ。何がそうなのとか言うと、いいの、じいちゃんは、なんて言って、仲間外れにされますけれども、だから、これから子どもだとかのほうが行っちゃおうというね。親やじいさんが後から追っかけてくるみたいな傾向があるのでは。

○中島教育長

多分、区長さんが見たのは学習アプリみたいなものを使っていたんじゃないですかね。

○濱野区長

そうなのかな。

○中島教育長

そんな場面、富尾先生もご覧になっていますよね。

○富尾委員

先日は学校に視察に久しぶりに伺いましたところ、違う国に来てしまったんじゃないかって思うくらい衝撃を受けました。こんなふうに学習の仕方が変わったんだということで。いろんなさまざまな取り組みを先生方はされていると思うんですが、その中の1つとして家庭での学習にもアプリを使うということがあります。クラス全体に対してのタブレットを使った授業というのもありますけれども、それぞれのお子さんに合った学習の提案みたいなことを、個別のタブレットでアプリを使うことのできることで、自分でやって見直してというようなことに有効に活用されているということも思いました。学校だけでなく、家庭での活用というのも随分進んでいて、学習のスタイルというのが本当に変わってきているということを実感しました。

○中島教育長

親子で一緒に勉強するチャンスにもなっているのかもしれないね。コミュニケーションができる。

菅谷先生は、学校に行かれてどんな感想を持たれましたか。

○菅谷教育長職務代理者

一番すごいなと思ったのは、学校ってやっぱり40人なら40人でしゃべったとき、先生がそれをまとめようとしますよね。黒板に今日のやったこと、こ

ういうことを勉強しました、ね。それは普通のスタイルで、それは非常にいいことだと思うんです。

ところが、それに行くまで一人一人の子どもが自分なりの考え方を持っているって僕は思っていて、強制的に自分の考えたことをきちんとまとめていくというのは、先生はいいかもしれないけど、自分の中でそういうことができるようになるって非常に大事なことです。

この前、5年生の保健の授業にわざと後ろから見てた。そうすると、タブレットの中身、コロナの対策をどうするかなんですよ。3種類ぐらいに分類するんです。この分類するとき、正しい答えは1つじゃないよって先生は思っているんですよ。だから、いろんなやり方について論じて、その子なりの考え方をそこでつくっているんです。それは、やっぱり今までの勉強とは全く違う。その子なりに考えた、コロナ本体に効くにはどういうことをしたらいいのか。だから、みんなで社会的で守らなきゃいけないというのは、こうしなきゃいけないというのは、誰かが言ったからそれに賛成というとかそういうのじゃなくて、自分からそれを考える。自分でそれをまとめていくって、いわゆる個別学習がやっと本格的に始まったな、そんな感じがするんですね。

点数を取る授業じゃなくて、自分で自分のことをきちんとしていくという教育の本質的な内容がこういう場面でできているなって思いましたね。

やっぱり、世の中って紙に書いてあるものというのは基本ですよ。だから、QRコードを使ってカメラで撮ると、その奥までさっと分かるような工夫をしている学校が結構あります。教科書でもそういうことがいっぱい出てきている。だから、これまでの授業とは違った形がどんどんどんどん進んでいくな、年寄りには遅れちゃいけないなど、そんなふうに思いました。

○中島教育長

先ほどの、このペーパーにあったような、まさに新たな価値を授業の中で創造している子どもたちの様子が、結構、さっきのVTRもそうでしたけども、垣間見ることが私たちもできまして。もう、私も菅谷先生と子どもの学びについては同感です。

○濱野区長

学校の中で暗記というのはどの程度重んじられているのかとか、軽んじられているのか、どうなんですかね。僕は暗記というのはある意味で非常に大事な事じゃないかと思うんですけどね。家の中では何かお父さんは暗記ばかりだからねとか、ばかにされたり。今、学校では暗記するということの扱いというのはどんなものなんですかね。

○中島教育長

なかなか明確にお答えするのは難しいのかもしれないですが、決して年号ですとかそういったものを全く覚えられない、人名とかも覚えなくていいよとか、そ

ういう話ではありません。やはり、こういったところはしっかりと知識として身につけていきたいと思いますという内容はあるんですが、それはそれとしまして、今やはり一番求められているのは、なぜそうなったかですとか、それから、じゃあこれからどうなるんだろうとか。そういったような一つのきっかけ、名前なり年号なりをきっかけに、時代はどう変わったですとか、そういうように考えていくということが重視されているのです。特にタブレットなどを持って調べようと思ったら、例えば歴史的な事実などはすぐに調べることができますよね。ですから、大学の試験で辞書を持ってきていいよですとか、タブレット持参でというようなケースも出てきているわけで。今、求められている新しい価値というのは、自分でものごとに対してそれを切り込んで改善して、方向を見つけていける力。それが主流にきている状況はあると思います。ただし、いろいろな知識が、理解が、全然なくていいというわけではなく、やはりそれらとのバランスの中で育てていく必要があるのかなというふうに思います。

○濱野区長

私は暗記というのも大事な脳みそのトレーニングじゃないかと思うんですね。ときどき、今でも新しいことを暗記しようと。この間、般若心経を暗記したんですけどね。観自在菩薩 行深般若波羅蜜多時 諸法無常 諸行無常 是生灭法 寂灭为乐 色即是空 空即是色。あれね、くだらないようなんだけど、やっぱりそれをやっている間、頭が空っぽになるんですよ。

○中島教育長

無の境地ですね。

○濱野区長

記憶を引っ張り出して。この作業ってね、何をやっているか分からないけどね。

○中島教育長

やっぱり集中力。

○濱野区長

大事なことじゃないかと思うんだけどね。今はもう戦後の教育の中では、暗記というのはあまり重んじられていないのかもしれないけども、大事な一つの要素じゃないかなというふうに思いますね。

○中島教育長

ちなみに、品川で英語科におきましてはストーリーテリングという中身がありまして、昔話の桃太郎とかを英語で繰り返し繰り返し覚えて、だんだん細か

い描写を増やししながら、1年生からずっとこう暗唱していく。こういったような取り組みですとか、あと、サントレという暗記をしてそれを朗読していくというような取り組みをやっている学校もあります。

ですから、少なくとも共通での英語をベースにしたストーリーテリングというのは、区長さんの今おっしゃったような、子どもたちがそれに集中して取り組んでいく部分。般若心経もそうですけど、無の境地でないと出てこないんですよね、次の言葉が。

○濱野区長

そうですね。

○中島教育長

思い出そうとすると出てこない。やっぱりその辺が、話が全然あっちのほうに行ってしまうって申し訳ないんですが、子どもたちの学びの中身としては、タブレットももちろん活用しておりますが、そういうラーニングもしているという状況がございます。

○濱野区長

暗記というのも一つの大事な訓練だと思うんですけどね。

○中島教育長

タブレットに話を戻させていただきますと、タブレットに関しましては、今、学校で学んでいるんですが、地域の方のボランティアで、放課後に子どもたちの学びを、コミュニティ・スクールとしてサポートしてくださるという方もいらっしゃるし、授業に近隣の企業で、やっぱり品川にはICT関連の企業がたくさんありますので、そういったところからかかわってプログラミングをフォローしてくれている方々とかがいます。そういったつながりも出てきているので、タブレットは子どもたちの学びのツールなんですけれども、そういうふうな学校をベースとして地域をつなぐ役割もしているというふうな状況であって、今後これが品川区の学びのベースにあり、そしてまた地域とともにある学校づくりの役割も担ってくれるものだ、そんな感じもしております。

○濱野区長

先生も大変だよ。本当にね。いろんなことに取り組まなきゃならないからね。

○中島教育長

ある程度までのところはコミュニティ・スクールのコーディネーターとか、そういうところとうまく手を組みまして。やっぱり先生方は教室での授業が勝負になると思いますので。

○濱野区長

それはそうですよね。

○総務部長

議論は尽きないようですが、そろそろ会議の進行上、閉じようかなと思います。最後に、何か全体を通して言いたいご意見とかありましたらよろしく願いします。

よろしいですか。区長のほうは、全体で何か通しておっしゃりたいことは。

○濱野区長

先生って本当に大変だなと思いますよね。明日の授業、どうやってやろうって考えて、その日を迎えるということの繰り返しだと思うので。もちろん慣れてくれば今までの蓄積で勝負できるということはあると思うんですけど、やっぱりなかなか大変な仕事だなと思います。

そのことで、子どもの未来というのが開けてくるわけですから、大変に重要なお仕事だと思いますので、教育長さん、ぜひよろしく願いします。品川の未来は子どもたちにかかっています。

○総務部長

ありがとうございました。

それでは、これで第1回総合教育会議を終了いたします。ありがとうございました。